

第4回協議会までに出された主な意見

「草原」「湿原」「樹叢」等の保全再生に関する事項

項目	意見
草原の森林化	<p>< 雑木処理等の推進 > 草原、湿原、樹叢の3つを中心にして、霧ヶ峰の自然を保全、再生していくのが大事な視点になる。 なぜ草原を守るのか、協議会として共通の理念を持つべきだ。科学的な根拠を持って、誰に対しても説明できる草原保全の理念が必要ではないか。 本来の霧ヶ峰が持っていた自然の良さは何だったのかということ掘り起こしていけば、霧ヶ峰をどのように保護していくべきか分かってくると思う。 人工林以外は、本来草原であるべきところに木が生えてたものであり、雑木に分類されるもの。雑木は切るほうが景観上よい。 雑木処理を少数のボランティアで実施していたのでは、霧ヶ峰の自然は維持できない状況だ。 霧ヶ峰のすべてを草原に戻すのはいろいろな条件の制約で無理があると思うが、原生的な森林植生として、まず樹叢を隔離して残し、保存する。その部分を中心にして原生的な自然を拡大していくという考え方もできる。 雑木処理といっても、いっぺんに林をなくしてしまうということではなく、雑木が増えすぎたところについて地道にできるだけの処理をしているものだ。そのような進め方は、問題ないと思う。 霧ヶ峰の歴史は、草刈りをして維持されてきた草山の歴史。先人が残した偉大な人と山との関わりは非常に大事なもの。それを残していくのが、霧ヶ峰の歴史を伝えていくという意味において、我々の時代の務めではないか。 霧ヶ峰には、豊富な植物種が存在しているが、森林化に伴って絶滅のおそれがある。貴重な植物を残すために森林化を防がなければいけない。 資源としての雑木・草の活用可能性調査は重要。草原の維持復元に合わせて、生産活動を復活させる取組みは非常に重要だ。</p> <p>< 森林価値の考慮及び草原保全の留意点 > 森林の有効性についても考えてほしい。 森林には、水害防止の役目がある。 森林が水源涵養に果たす役割も大きい。 森林は、野生動物の棲み家でもある。池のくすみには、ツキノワグマの生息域がある。 草原を守る場所、森林化させる場所の議論をすることが必要だ。森林化をどこまで許容するか、具体的な形で議論すべきだ。 人工林の部分の間伐が必要だ。 森林化した雑木の処理より 人工林を減らすことと人工林の手入れをすることを考えてほしい。 火入れ等により外来種が増えることもある。多面的な検討が必要だ。 霧ヶ峰に千数百種あるといわれる植物について、どこにどのような植物があるのか、調査研究し、データを整備する必要がある。 これから100年のうちに地球温暖化が進めば、場合によっては霧ヶ峰の高地を畑にするというような状況が出てくるかもしれない。</p>
レンゲツツジへの対応	<p>レンゲツツジの面積が大きく増えている。対策を講じるべきだ。 レンゲツツジは森林化を促進している要素でもある。ただ一方で、レンゲツツジは観光資源にもなっている。両者の兼ね合いを考えながら、ゾーニングの考え方などによって、協議会で検討していけばよいのではないかと。</p>

<p>湿原の乾燥化等</p>	<p><対策の必要性> 八島ヶ原湿原鎌ヶ池の北側の雑木が増え、湿原乾燥化の要因になっている。冬の積雪時にスノーシューで湿原に入り込んでしまう人がいる。その監視と対策が必要だ。 八島ヶ原湿原北側の木道と湿原の間の雑木が増えている。木道から池、湿原、サワギキョー等の植物が見えにくくなっている。対策を検討すべきだ。</p> <p><対策に当たっての留意点> 八島ヶ原湿原の下諏訪町側は国有林であり、国有林野施業実施計画において「自然維持タイプ」(自然の遷移に任せて管理していくタイプ)の位置付けになっている。霧ヶ峰自然環境保全協議会の議論と国有林の計画との擦り合わせが必要。湿原保全のため雑木をどのあたりまで伐採していくのか協議会で提言してもらえれば、国有林の計画の検討に入れる。(参考:現行の第3次国有林野施業実施計画の期間は、平成20年度から24年度まで) 八島ヶ原湿原の周囲の森林がなくなると、湿原が土砂で埋まってしまうおそれがあるのではないかと。 八島ヶ原湿原については、(出口を堰き止め、)水位を上げれば湿原を維持できるという考え方もあるが、人工的に水位を上げるようなことはすべきでない。前回1996年に湿原の植物に関する調査が行われてから10年が経過している。モニタリングが必要だ。</p>
<p>外来種への対応</p>	<p>外来種の侵入が著しい。外来種の影響評価をすべきだ。 八島ヶ原湿原の周りでは、ヒメジョオン等の駆除が継続して行われている。当初、抜き取る方法で行っていたが、切り取る方法に変えた。それにより、スズラン、アマドコロ等が増え、効果が現れている。 外来植物についてのモニタリングが必要だ。</p>
<p>野生鳥獣被害対策</p>	<p>ニホンジカの食害対策を早急に講じるべきだ。</p>
<p>文化遺産としての価値</p>	<p>霧ヶ峰には縄文や御射山の遺跡もあるし、採草によって管理してきた経過もある。また、湿原があり、希少植物がある。登録のメリット・デメリットをよく検討した上で、世界遺産に登録することを目指してもいいのではないかと。 世界遺産には自然遺産と文化遺産がある。霧ヶ峰はおそらく両方に該当するのではないかと。 草原は文化遺産でもある。</p>
<p>歩く霧ヶ峰</p>	<p><歩く霧ヶ峰の推進> ビーナスラインの保護と利用のあり方研究会で霧ヶ峰は歩いて利用する山なんだという結論付けをしている。「歩く霧ヶ峰」を推進する方法を協議するとよいのではないかと。</p> <p><歩く霧ヶ峰推進の留意点> 霧ヶ峰を歩く人が車を駐車したままにするため、駐車場が満車になり、回転しない。店舗営業に大きな支障が生じている。</p>

“彩り草原空間”形成・施設整備等に関する事項

項 目	意 見
トイレの整備	<p><整備の必要性> 車山肩のトイレの問題は、早急に対応すべきだ。 現在は、車山肩に公衆トイレがないため、車山肩で営業している事業者のトイレが使われている。トイレの汲み取り費用等の負担が非常に大きい。売上増加にはつながっていない。 沢渡にもトイレの整備をお願いしたい。 冬の客から「霧ヶ峰には冬使えるトイレがない」という話を聞いている。将来は冬も使えるトイレにしてほしい。</p> <p><整備に当たっての留意点> 草原を壊してまでトイレを造るのかということを考えると、トイレは現在の駐車場の中につくるべき。 トイレを造るには、その後の維持管理の方策もよく検討してからにすべきだ。 「車山肩にはトイレがないので、事前に強清水等で済ませてから行ってください」ということも利用者に周知、PRすべきだ。 バイオトイレについては、冬期の霧ヶ峰の寒さも考慮し、気候条件等をよく理解した設計が必要だ。</p>
駐車場の整備	<p><整備の必要性> 車山肩の駐車場の問題は、早急に対応すべきである。駐車場を広げてほしい。山歩きをする人が駐車したままにするので、朝5時頃から駐車場が満車になってしまう。そのため駐車場の回転率が低く、営業店舗に客が入らない。</p> <p><整備に当たっての留意点> 車山肩の駐車場の拡張は、草原を壊すことにつながらないか。 非常に混雑するのは主にニッコウキスゲの時期。その他の時期は駐車場もすいている。</p>
利用者負担	<p><利用者負担の必要性> 霧ヶ峰を訪れる人たちから霧ヶ峰の保全のための協力金を徴収することを提案したい。 トイレの有料化を検討すべきだ。 駐車場の有料化を検討すべきだ。</p> <p><負担を求める場合の留意点> トイレの有料化のためには、きれいなトイレ設備にすることが必要だ。 過去に駐車場の有料化もしてみたが、料金を支払わないまま、出口で振り切ってしまう車が多くあったため、2週間でやめた経過がある。</p>
空間形成、景観	<p>霧ヶ峰をひとつのエコミュージアムという考えを持って事業をしていけば、エリア全体の価値の向上につながるのではないかと。 廃屋の対策が必要だ。</p>
過剰利用	<p>霧ヶ峰をたくさんの人に楽しんでほしい。年間に大勢の観光客が来ても、春、秋、冬に利用を分散させることなどで過剰利用の状況の改善ができる。</p>
シャトルバス(ラウンドバス)運行	<p>シャトルバスは復活してほしい。 シャトルバス(ラウンドバス)の運行に当たっては、美ヶ原や蓼科、八ヶ岳地域との広域的関連性を持たせることが必要ではないか。</p>
木道、遊歩道の整備	<p>八島ヶ原湿原の木道へ車椅子が入れない。また、霧ヶ峰自然保護センターの前から霧鐘塔へ通じる遊歩道の入口のところが車椅子では通れない。そうしたことが身体障害者のご意見としてある。検討してほしい。</p>

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築等に関する事項

項 目	意 見
エコツーリズム(エコツアー)の推進	<p>エコツーリズムは、霧ヶ峰のこれからのキーワードだ。 霧ヶ峰のイメージとして何が大事なのか整理し、霧ヶ峰に滞在し、霧ヶ峰の植生、自然等についてすばらしさを認識して帰っていただく、そのための戦略を抜きにして、霧ヶ峰はすばらしい観光地になりえない。 霧ヶ峰ならではのエコツーリズムモデルを構築することが一番大事ではないか。ほかのところのものを持ってきても、霧ヶ峰に適用されないと思う。人間と自然の山が関わった歴史は霧ヶ峰ならではのもので、他に類を見ない。 エコツアー参加者に雑木処理の活動にも参加してもらい、それを行いながら自然を楽しんでいただくPRもしている。 将来エコツアーで都会から多くの人に来て、霧ヶ峰の自然を残すため雑木処理などの活動に参加する、そういうふうな発展して欲しい。 インタープリターの養成を強化していくべきだ。</p>
ビジターセンターのあり方	<p>観光と自然を守るということの接点、また、来ていただいた人たちに対応する中核的な施設としてのビジターセンターの整備が必要だ。</p>
情報発信	<p>霧ヶ峰の魅力とその利用の仕方について、霧ヶ峰の利用者や霧ヶ峰に興味を持つ人たちに情報発信していくことが必要だ。</p>